



## インドネシア

# BOP層実態調査レポート

### 概要

冠婚葬祭は、インドネシアのBOP層にとっても、家族的または社会的に重要な行事である。この世に生まれてから、まず、イスラム教徒等の場合には新生児期または幼児期の割礼があり、後に結婚式、そして最後に葬式、の3つが大きな冠婚葬祭行事となる。

まず、子供が産まれて1週間前後で割礼をする。割礼とは、性器の包皮の一部を切断する風習で、主にイスラム教徒で見られるが、それ以外でも割礼を行う場合が少なくない。男児だけでなく女児も行う。学童期にも割礼を行う場合がある。BOP層向けでは、たとえば行政府が特定の日時を定め、そこで集落の該当する子供全員を集めて、一斉に割礼を行う場合もあり、各家庭で行う場合もある。



集落の子供を集めた集団割礼行事風景  
(南スラウェシ州バンタエン県、2008年10月)

割礼では通常、それを行った子供のいる家が近所の人々を招いてお祝い行事をする。あるいは、集落をあげて割礼のお祝いをする場合もあり、歌や踊り、余興などを含む一大娯楽行事となる。インドネシアでは、子供の誕生日を祝う風習が商業主義に乗って都市部では見かけられるようになってきたが、必ずしも一般的ではなく、割礼の方が重要視されている。

次に、大きなイベントは結婚式・披露宴である。近代的な結婚式・披露宴は1日程度の短期間で終了するが、農村などでは今も1週間近くの間をかけて行われることが少なくない。BOP層であっても基本的に同じであり、かなりの出費となる。とりわけ、インドネシアの人々は見栄っ張りで、中低所得層であっても、それなりに派手な結婚式・披露宴を行おうとする。

かつて筆者は、筆者の運転手の親戚(マカッサル市の都市部での中低所得層)の結婚式に出席する機会を得たが、そのときには、筆者の保有する家庭車を借りて、警察の白バイの先導車を付け、新郎側が新婦の家へ向かうという経験をした。新婦の家には、イスラム説教師と市住民登録局職員が呼ばれ、その場で、イスラム教の教えに則って結婚の契約が新郎・新婦間で交わされ、結婚が成立する。一連の儀式が終わると、そのままそこで宴会(披露宴)へと



中所得層地域での新郎新婦入場の様子(南スラウェシ州マカッサル市、2008年8月)



場面転換する。集落の人々が用意した食事が参集した人々へ振る舞われ、歌や踊りなどのアトラクションがスピーカーからの大音響とともに延々と続く。資金に余裕のある者は、イスラム教徒の場合はモスク、キリスト教徒の場合は教会で結婚の契約を結び、披露宴は簡易的な結婚式場やレストランなどを借りる場合もある。家での場合には、集落の人々が総出で、食事の準備からアトラクションまで協力する。

結婚式・披露宴には定員も時間表もなく、参集者が多ければ多いほど幸運であるとされ、何の関係のない人でも参集してかまわない。参集者が途切れて来なくなった時が披露宴の終了であり、それまで、食事がなくならずに残っていることが求められる。このため、結婚式・披露宴も相当な出費となり、できる限り多くの参集者を集めて祝金で補填する。

葬式は、イスラム教徒の場合には割と質素に行われる。イスラム教では土葬となり、遺体の腐食を避けるため、死後24時間以内に早く埋葬する必要がある。遺体を清め、棺桶に入れた後、近親者で集まり、イスラム説教師による儀式を終えた後、急いで墓地へ遺体を搬送する。埋葬後は終了し、とくに食事を供することはない。

他方、結婚式よりも葬式を盛大に行う種族もある。有名なのは南スラウェシ州の山間部に住むトラジャ族である。彼らは遺体をホルマリン漬けにし、葬儀資金が用意できるまで、棺桶に入った遺体と共に生活する。何年もかけて葬儀資金を用意できると、生け贄としての水牛や豚を何頭も屠り、葬儀に参集した人々に振る舞うとともに、何日間かに分けて一連の葬儀が行われる。彼らの見栄っ張りのためか、BOP層であつても親族などから多額の借金をしてでも、隣近所よりも多くの水牛や豚を屠って、派手な葬儀を行う傾向がある。



結婚のための誓約をする新郎  
(南スラウェシ州マカッサル市、2008年8月)



教会で式を挙げるキリスト教徒のカップル  
(南スラウェシ州マカッサル市、2008年11月)



トラジャ族の葬式でと殺された水牛(南スラウェシ州タナトラジャ県、2008年8月)

## 所感

BOP層ではあつても、割礼のお祝い、結婚式・披露宴、葬式などを同等の他者よりも劣らなく見えるように実施したいという見栄っ張りの傾向がうかがえる。そのための出費を賄うために、親族や知人から借金をしたり、田畑や家畜を売ったりして、資金を捻出するケースも少なくないようである。時間をかけ、できるだけ多くの人々に参集してもらい、集落を挙げて祝う、というやり方はまだしばらく続きそうである。



【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。